

「両方の意見大事に」

新校名2案合併「打吹至誠」

倉吉・準備委
12.28(朝日)

「打吹、至誠のどちらかに決めると後々しこりが残る」。26日夜、倉吉市立成徳小学校・灘手小学校統合準備委員会の結論は、2案の合併だった。平行線の議論、市民の反発、市議会での激論。紆余曲折を経て、新小学校名は第3の案「打吹至誠小」に決まった。来年1月にも臨時市議会が招集され、新校名の是非が審議される。

臨時市議会でも来月にも審議

倉吉市役所第2庁舎の会議室。24人中17人の委員が着席し、直接請求などこれまでの経緯や、「適切なルール」で至誠が選ばれたことなどが確認された。



倉吉市教育委員会に、「打吹至誠小」案が報告された倉吉市役所

名称の重大性 どの程度認識

真山達志・同志社大教授(行政学)の話 手続きやルールがあいまいだったことが問題を引き起こしたようにも思える。小学校は単なる学校教育施設というだけではなく、地域の基礎単

準備委の「総務部会」でいったん協議することに。10人による総務部会が開かれ、委員が「打吹山は地域のシンボル」「至誠はこの上ない誠実さ、言葉に重みがある」などと2案の良さをそれぞれ説明した。しかし、議論は折り合わず、委

員の一人が「どちらか一方を選べというのは難しい。両方とも選んで、打吹至誠はどうか」と提案。「どちらに決めてもしこりが残る。両方の意見を大事にした案だ」と賛同する声が続いた。

一人の委員が「市教委に委ねるべきだ」と異論を唱えたが、他の委員は「打吹至誠」案に賛成した。全体部会に戻った後も強い反対は出ず、「地域間の対立が深まり委員を辞めたいという声もあった。全部妥協は出来ない」ともすり寄りが必要だなどの声が出た。委員長が語り、「打吹至誠」と決まった。投票は行われなかった。

準備委は公開され、約20人の傍聴人が集まった。傍聴席からは、「手続きがおかしい」「二つを一つにするにはいいってもんじゃない。恥ずかしいわ」などとヤジが飛び、市職員に制される場面もあった。

終了後、取材に応じた準備委の山口明茂委員長(52)は「両地区の思いを否定することなくお互い認め合った校名に決定できたのは感慨深い。子どもたちにも異なる意見があったとしてもお互いを認め合うことの大切さを伝えなければいけない」と話した。

27日は市教育委員会があり、「打吹至誠小」案が報告された。委員からは「思いが一つになった名前、それなりに理解出来る」などの発言があり、成徳・灘手両校の閉校と、打吹至誠

も真摯に応えたとは思えない。そもそもなぜ再議をしているのかの整理から始め、出席者に自覚と責任感を持つてもらい、地名以外の名称を付けるにはそれなりに理由が必要であることを認識した上で議論してもらうことが大事だった。

小の開校を学校教育審議会に諮問することが決まった。審議会の答申を経て、新名称を定めた改正条例案を臨時市議会に提案する。(奥平真也)

県勢の倉吉東

1回戦で敗退

全国高校ラグビー

第102回全国高校ラグビー大会が27日、大阪・花園ラグビー場で開幕し県勢の倉吉東は1回戦で高鍋(宮崎)に0-66で敗れ、初戦突破はならなかった。

5年ぶり出場の倉吉東は「花園1勝」が目標。しかし試合は総合力に勝る高鍋に序盤から主導権を奪われ、劣勢。前半を0-38で折り返し、後半もトライを重ねられて28点を奪われ、突き放された。(清野貴幸)

野鳥の飛来地で

鳥インフル確認

鳥、鳥取の水田調査

県は27日、鳥取市内の野鳥の飛来地から高病原性鳥